

水田たより 11月号

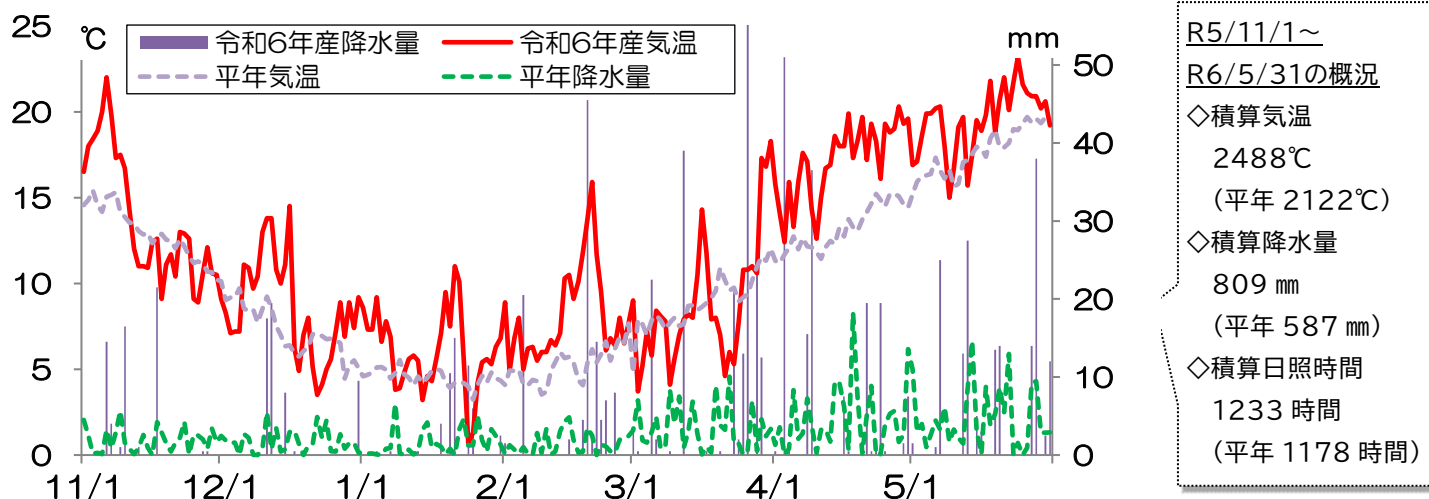
令和6年11月1日

JA みえきた

桑名地域農業改良普及センター

麦

令和6年産の振り返り



令和7年産麦に向けて、令和6年産の気象や雨量について振り返りを行いましょ。令和6年産は、平年に比べて気温が高く、麦の生育が早く進みました。そこで、凍霜害予防のため、麦踏などを行って頂いたかと思ひます。しかし、2月から5月にかけて、平年の約1.5倍の降雨に見舞われ、一部ほ場で湿害や赤かび病の発生が見受けられました。令和7年産でも湿害対策及び赤かび病の適期複数回防除を徹底しましょ。また、1か月予報(令和6年10月24日名古屋地方気象台1か月予報)では、気温が高くなると予想されています。なお、3か月予報でも気温が高くなると予想されています(令和6年10月22日気象庁発表)。品種に合わせて適期に播種しましょ。

麦

暖冬が予想されるため、播種時期に注意！

令和7年産も暖冬と予想されており、生育前半で過繁茂となり、生育後半で肥料切れする恐れがあるほか、幼穂形成が早まることによる凍霜害の危険性があります。播種が早すぎると、過繁茂や肥料切れによる倒伏や減収のリスクが高まりますので、**早播きしすぎないよう注意**してください。

一方、降雨などにより播種が遅れすぎてしまうと、初期生育が確保できず、収量・品質に影響する可能性があります。適期に播種できるよう、計画的に播種を開始してください。

品種ごとの播種適期

ファイバースノウ ⇒ 11月上旬

あやひかり ⇒ 11月上中旬

さとのそら ⇒ 11月中旬

- ・上記の播種適期に播種する場合、**適正な播種量は8 kg/10a**です(条播き、条間25cmの場合)。
- ・播種が遅れてしまった場合は、播種量を増やして生育量を補います。
- ・例：12月上旬は10kg、12月中旬は11kg。

※令和6年産では湿害を受けたほ場が多く見られました。播種前に溝切など排水対策を徹底しましょ。

大豆

品質を上げる！収穫前の汚損粒対策について

■畑作物の直接支払交付金（ゲタ対策）では大豆の作付面積に応じて「面積払」が、生産量と品質に応じて「数量払」が交付されます。

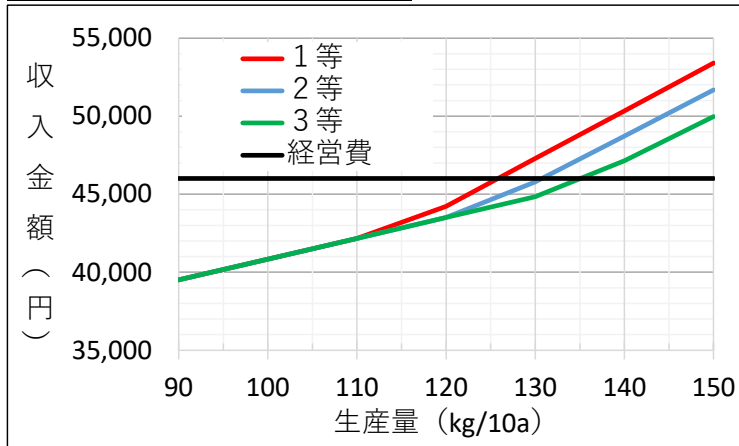
・「数量払」の交付単価

品質区分（等級）		1等	2等	3等
普通大豆 (60kgあたり)	課税事業者向け単価	10,360円	9,670円	8,990円
	1等との差額		-690円	-1,370円

例：生産量が150kg/10a、品質が1等の場合

「数量払」の交付金額は $10,360 \text{円}/60\text{kg} \times (150\text{kg}/60\text{kg}) = 25,900 \text{円}/10\text{a}$

・等級別の収入金額の試算



【試算条件】麦あと大豆

- ・収入
販売収入 8,000円/俵。
畑作物の直接支払交付金を含む。
戦略作物助成を含まない。
産地交付金 7,500円/10a。
(市町により金額が異なります)
- ・経営費
46,000円/10a 農業経営指標より

上記の試算条件下で、所得がプラスになる生産量は1等が約125kg/10a、2等が約130kg/10a、3等が約135kg/10a以上です。

■品質低下の原因として汚損粒の発生が目立ちます。収穫前の対策が重要です！

・雑草、青立株の手取り除草

水分を多く含む雑草（アサガオ類、ケイトウ類、ホオズキ類）や青立株をコンバインに巻き込むと汚損粒の原因となってしまいます。収穫前に抜き取りましょう。

すでに種子をつけている雑草はほ場外に運び出し処分します。ほ場に残る雑草の種子量を減らせるため、翌年以降の雑草抑制に繋がります。

・適期刈取り

大豆の収穫適期は、子実の水分が18%以下、茎の水分が50~25%（茎が黒みを帯び、ポキッと折れる）です。成熟期（カラカラと乾いた音がする）から1週間以内を目途に収穫しましょう。

大豆

異物混入対策について

■実需者からは高品質な大豆の出荷が求められています。上記の汚損粒対策に加えて、異物混入対策を徹底しましょう！

・ジュズダマの実（苞鞘）が大豆に混入すると色彩選別機での除去が困難です。発生状況を確認し、ほ場で抜き取りを行いましょう。



トウモロコシに似た葉。
実は熟すると緑色から黒色に変化する。



中央○：ジュズダマ
周囲：大豆

過去の水田たよりは桑名地域農業改良普及センターのホームページでご確認いただけます。「桑名普及」でご検索ください。



桑名普及

検索